



『資料にみる西原ビジュアル版』

先月に引き続き、今月号も「資料にみる西原ビジュアル版」についてご紹介したいと思います。

ビジュアル版はその名の通り、写真や地図、辞令書および文書などを掲載し、ひと目で西原の歴史や文化を理解していただけるように編集しています。



1935年（昭和10）ごろの西原村役場

地が末吉や儀保・石嶺までという広範囲であったということがわかります。

また、戦前の各集落の空中写真や地図、戦前の内閣御殿の姿を鮮明にみることが出来ます。その他、西原の戦争、戦後復興と発展の様子を掲載しています。

その内容は、大きく三つに分けることができます。第一編「西原のあゆみ」では、戦前から本土復帰までの歴史を紹介しています。具体的には、十七世紀半ばごろに製作された琉球国惣絵図（仮称）をみると、当時の領

第二編「西原のすがた」では、移民・行政・教育とスポーツ・産業と経済・年中行事と民俗芸能・文化財を紹介しています。西原は沖縄県でも有数の移民母村であり、世界各地で「ニシハランチュ」が生活しています。特に小那覇・我謝・翁長の方々が海を渡りました。



1935年（昭和10）安室男女青年団渡航記念写真。また、西原の年中行事と民俗芸能」では先人たちが受け継いだ伝統行事を大切にして西原の人々の様子が伺えます。

第三編「資料編」では、西原を代表する人物を紹介し、歴代村長町長・助役（副町長）・収入役・議長・副議長などの名を掲載しています。また、明治時代から現在までの西原の歴史的な概要をつかむため、略年表も掲載しています。

皆さんもこれを機会に「西原の歴史」に触れてみてはいかがでしょうか。自分が住んでいる町の意外な一面を発見することができると思います。

これからも皆様のご協力を得ながらよりよい町史編集を進めていきたいと思ひます。

ビジュアル版は町教育委員会生涯学習課にて1冊千円でおもとめられます。